

国際商品市況（1/19～2/13）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

金融要因から銅は神経質な展開

2026年 2月 17日

原油（短期的な供給不安から上昇）

2

主任研究員 伊勢 友理

銅（金融要因から神経質な展開）

2

上席主任研究員 李 雪連

鉄鋼原料（中国春節下でまちまち）

3

上席主任研究員 栗名 奈美

穀物（中国の大豆追加購入期待で上昇）

3

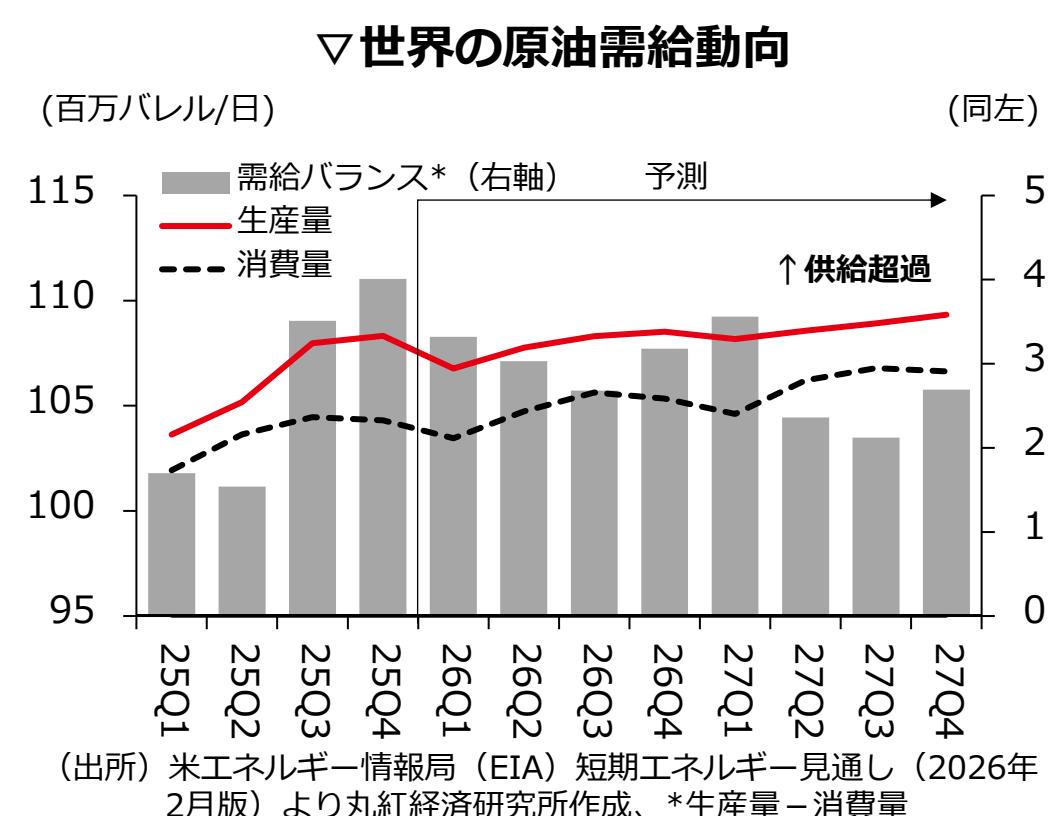
主任研究員 浦野 愛理

原油

主任研究員 伊勢 友理

足元の動向：WTIは1月末に65ドル台まで上昇。カザフスタンでの電力の供給障害から同国最大の油田が操業を停止したことや、米国の寒波で原油生産が減少したことが押し上げ要因となった。また、トランプ米大統領がイランに大規模な艦隊が向かっていると発言したことや、米財務省がイラン産原油・石油製品の輸出に関する船舶や企業を制裁対象としたことも買い材料に。2月は米イラン核協議が行われた一方、米空母にイランの無人機が接近するなど情勢は一進一退となり、価格は上下。

先行き：イランやベネズエラ、ロシアの地政学リスクに価格が振れやすい展開が見込まれる。他方、基調的な供給超過状態は当面解消されないため、上値は限定的と予想。需要は、世界経済が緩やかに成長する中、インドを中心に増加する見通し。供給は、採算性の観点から米国産が伸び悩むとみられるほか、OPECプラスが3月まで自主減産の縮小（＝増産）を一時停止することを再確認したが、これらを合わせてもこれまでの大幅な供給超過状態が幾分か緩和される程度にとどまる見通し。

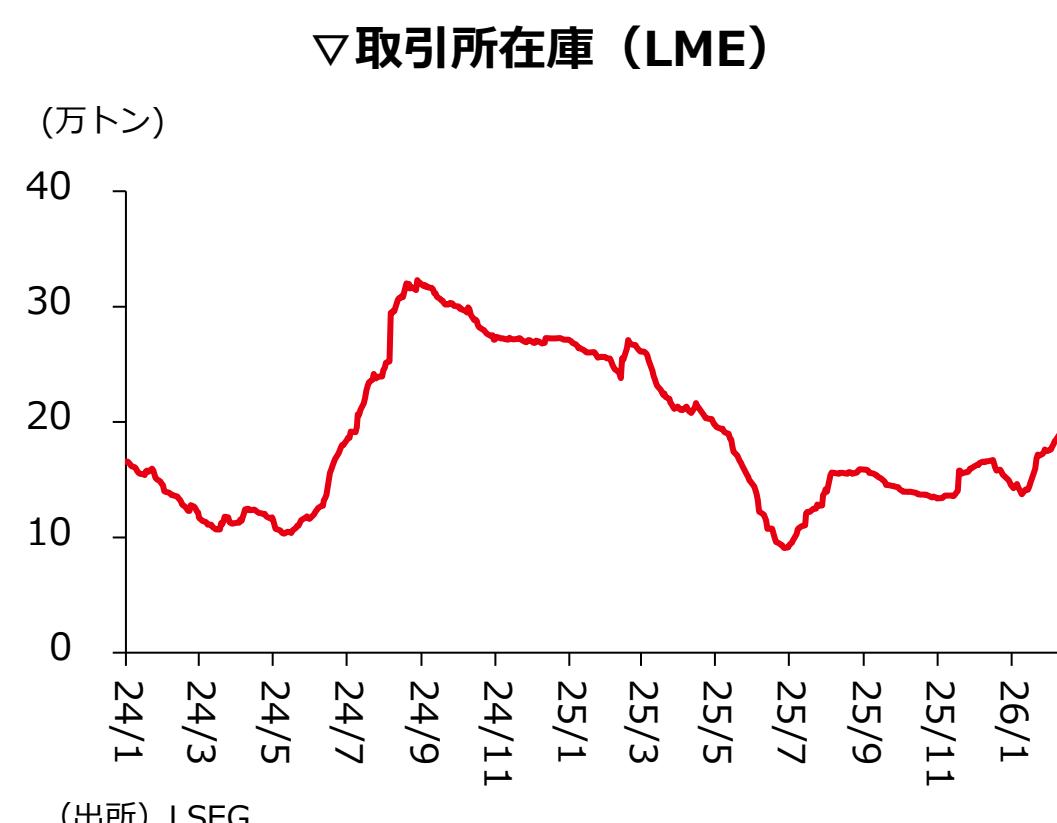


銅

上席主任研究員 李 雪連

足元の動向：ロンドン金属取引所（LME）の銅価格は、大幅に上昇し1月末に一時14,000ドルを超えた。供給をめぐる混乱で需給の引き締まりが材料視されたほか、米国のFRB次期議長人事を巡る思惑を背景とした一時的なドル安進行による割安感や、投機筋による買いが複合的に作用した。その後は、利益確定売りや米国取引所での証拠金引き上げなどを受けて下落。足元では、チリ鉱山のストライキ終結による供給不安の後退などから反発するなど、神経質な展開が続いている。

先行き：主要3取引所の銅在庫は100万トン程度まで積み上がり、歴史的に高水準となっていることから、足元では余剰感が意識されやすい。特に、最大需要国である中国は2月下旬まで春節の長期休暇に入っているため、薄商いの中、短期的には価格が不安定な動きとなるだろう。一方、中長期的には、データセンターや送電網の整備、再生可能エネルギー拡大向けといった需要増に加え、鉱石不足や製錬所の採算悪化といった供給不安要因が、価格の下支えとなる構造は変わらない。



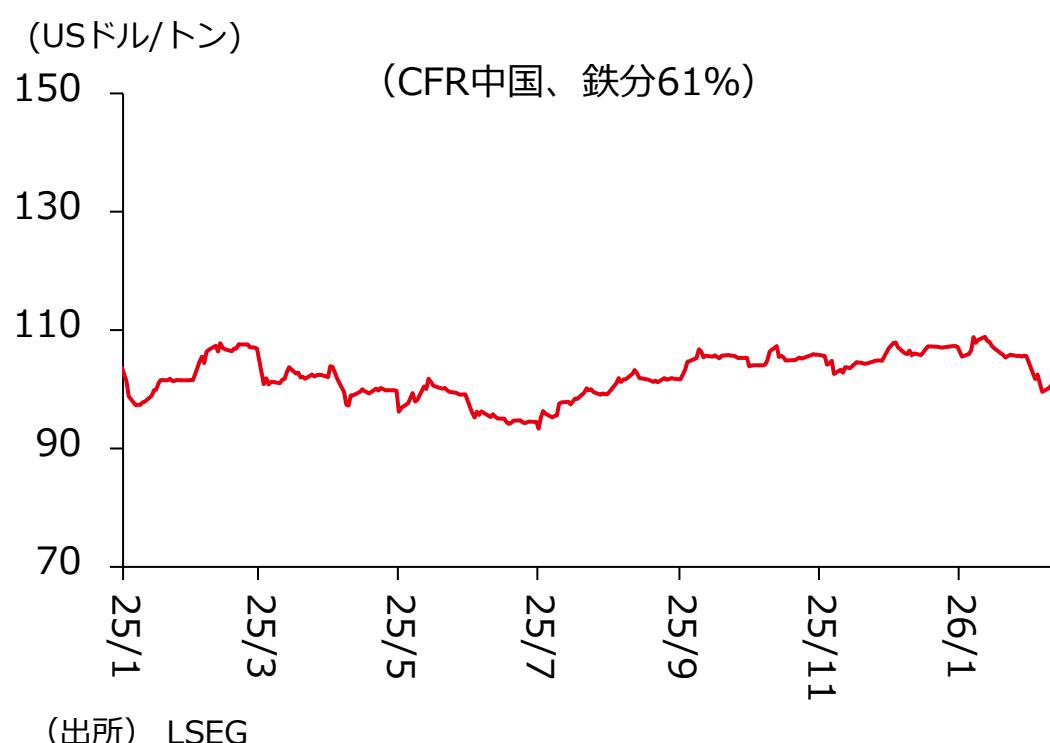
鉄鋼原料

上席主任研究員 萩名 奈美

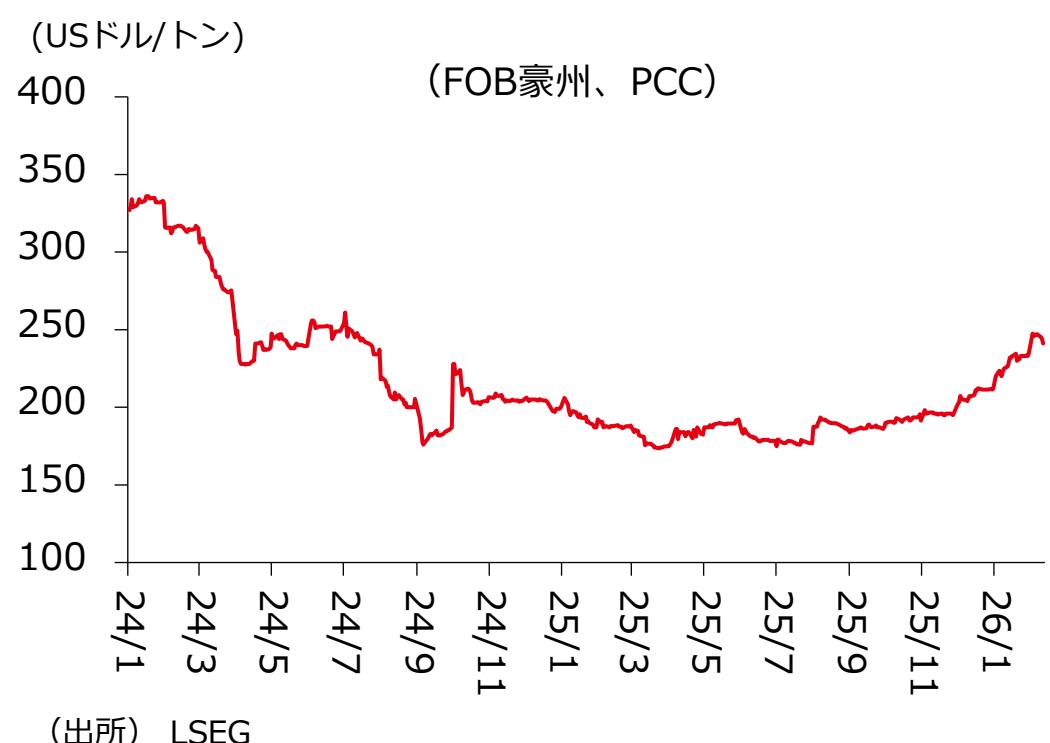
鉄鉱石：鉄鉱石価格は100ドル付近まで下落した。主力産地のブラジルでは大雨による鉱山設備からの溢流事故が発生し、豪州でも降雨による供給網の混乱が生じたものの、中国の低調な鉄鋼需要が価格を押し下げたとみられる。中国の鉄鋼生産量は縮小傾向にある一方、安値拾いを背景に鉄鉱石の輸入は拡大を続けており、2月初旬時点の鉄鉱石港湾在庫は高水準で推移している。春節明けに補充買いが入る可能性はあるものの、供給は総じて潤沢であるため、目先の上値は重いとみられる。

原料炭：豪州炭価格は245ドル付近まで上昇した。需要面ではインドの鉄鋼生産量の拡大が見られ、供給面では主力産地である豪州クイーンズランド州で1月に発生したサイクロンが供給網に混乱を招いた。同地のサイクロンシーズンは4月頃まで続くため、今後も供給懸念が価格を押し上げやすい展開が続くとみられる。なお、インドは原料炭を重要鉱物に指定し、さらに米国からの購入拡大にも意欲を示す。調達多様化を狙う同国の動きは将来の豪州炭需要の軟化に繋がる可能性も。

▽鉄鉱石 (SGX、期近物)



▽原料炭 (SGX、期近物)



穀物

主任研究員 浦野 愛理

トウモロコシ：米シカゴ商品取引所 (CBOT) のトウモロコシ価格は、4.2ドル台で横ばい推移。米国産の堅調な輸出は国内需給を幾分か引き締めたが、過去最高水準の生産量が重しに。米農務省の2月月報では、2025/26年度の米国産の生産見通しが据え置かれた一方、輸出見通しが引き上げられ、期末在庫見通しは下方修正された。米国産輸出は対メキシコなどで堅調だが、高水準な生産が重じとなり、価格は横ばい圏内で推移する見通し。目先は3月末公表の米国の作付意向面積に注目。

大豆：大豆価格 (CBOT) は、11ドル台前半まで上昇。ブラジル産の豊作見通しが需給緩和を連想させる中、中国による米国産大豆の購入は続いているが、購入量が2,000万トンに引き上げられるとのトランプ大統領発言が上昇要因に。米農務省によると中国向け輸出成約高は2月5日時点で1,200万トン弱と当初約束の水準まで増加。今後は中国が追加購入するか次第で価格は上下するだろう。なお、米農務省の2月月報では、2025/26年度の米国産の期末在庫見通しを含む全項目が据え置かれた。

▽トウモロコシ (CBOT、期近物)



▽大豆 (CBOT、期近物)



(執筆者プロフィール)

伊勢 友理 (Yuri Ise)

ISE-Y@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、日本、原油・ガス

日系金融機関を経て、2021年から丸紅経済研究所。2024年から25年に日本経済研究センターに出向（マクロ経済モデル、時系列データ・パネルデータ分析）。現在は主に日本の政治・経済、原油・ガスを担当。東京大学経済学部卒業。

李 雪連 (Xuelian Li)

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

桑名 奈美 (Nami Kuwana)

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：サステナビリティ、サーキュラーエコノミー、LCA、エネルギー

日系金融機関を経て2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業の環境・エネルギー政策・技術動向調査などを担当。2023年から丸紅経済研究所。主に素材産業やサステナビリティの産業政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

浦野 愛理 (Airi Urano)

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- ・ 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- ・ 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- ・ 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。